

資料 1

「安曇野市新市立博物館構想(案)」に寄せられた意見と回答

パブリックコメント:H27.9.24～10.23
市民説明会:H27.10.15～10.22

「安曇野市新市立博物館構想(案)」に寄せられたご意見と回答

ご意見をいただいた構想書の該当箇所	No.	ご質問・ご意見・ご要望	回答
前提条件の整理	1 本構想の目的	p.2「新市立博物館構想の体系」にある「地域博物館の継承」「文化芸術施設の運営」のためには「地域文化を支える人材の育成」が急務です。	ご指摘いただきましたように、地域文化を支える人材の育成は急務であると捉えております。本構想書p.18・19「統廃合や新市立博物館設置に向けた条件整備」の項では、博物館準備センターの設置や地域を巡回するコンパクト展示などを通して、若手学芸員の育成を図っていますが、在野の専門家等の人材育成には触れていなかったため、記述を追加しました。 また、本構想p27～「事業・活動構想」に記載しましたように、新市立博物館では、市民や他の団体との連携して博物館活動に取り組み、市民一体となって地域文化を支える体制をつくることとしています。友の会につきましては、p43「管理運営構想」の博物館を支える市民組織のひとつとしてイメージされています。
	2 博物館等施設の現状と課題	p.3「活動理念・事業内容の課題」に「在野の専門家は高齢化などで減少の一途をたどっており」とあります。このためには、交流学习センター(図書館)、公民館、学校との連携強化が欠かせないと思います。p.6「他の施設との入館者数比較」データをどうとらえるかで変わってくると思います。	
	3	友の会活動などを推進していけば、在野の研究者ももっと増える可能性がある。	
	4	<p>特色ある博物館の創生</p> <p>1. 里地・里山の保全・研究としての拠点</p> <p>2. 生物多様性・環境保全の研究・普及としての拠点</p> <p>そのために、学芸員の増員・収蔵庫の整備などを要望する。</p> <p>5年前に関西から移住してきたが、長野県は自然が豊かだが、その自然を知ったり、楽しんだりするための案内役をする自然史系の博物館が少なく非常に残念に思っている。</p> <p>(関西では、県立で予算が違うが 滋賀県琵琶湖博物館(学芸員32人) 兵庫県人と自然の博物館(研究員34人) 大阪市立自然史博物館(学芸員15人) 各博物館が普及活動として年間150回以上のイベント・セミナーを行っている。)</p> <p>調べてみると、長野県の博物館数は全国でも数は多い。しかし、自然史系は地学系では少し充実しているが、生物系は観光地にビジターセンターなど、博物館類似施設があるのみで学芸員がいる登録博物館はわずかである。大町山岳博物館と戸隠地質化石博物館、飯田美術博物館ぐらだろうか。生物系の学芸員は長野県すべてでも数名ではないかと思われる。</p> <p>博物館には資料の収集・研究・展示・普及などの仕事があるが、学芸員がいて収蔵庫がなければ博物館として機能しない。例えば、植物の標本は信州大学と飯綱の環境保全研究所にしかない。自然が豊かな長野のフィールドが生かされていないと思う。</p> <p>例えば「あづみの里地・里山博物館」 安曇野市の自然と文化の研究と普及 市の里山再生計画との協力・県営烏川渓谷緑地・国営アルプスあづみの公園との協力 文化系の学芸員 数名 充実してほしいのが 自然史系の学芸員 最低でも地学系1人 植物 1人 昆虫 1人 鳥・哺乳類など 1人</p>	
	5	p.3「活動理念・事業内容の課題」にあるように安曇野市全体の中での役割を明確にすることが重要です。	

ご意見をいただいた 構想書の該当箇所	No.	ご質問・ご意見・ご要望	回答
博物館の 再編整理 と新市立 博物館 構想の 方向性	3 統廃合のあり方	6 15年後に建設できるような人材の育成や基金の備えが必要と考える。	ご指摘いただきましたように、地域文化を支える人材の育成は急務であると捉えております。本構想書p.18・19「統廃合や新市立博物館設置に向けた条件整備」の項では、博物館準備センターの設置や地域を巡回するコンパクト展示などを通して、若手学芸員の育成を図っていますが、在野の専門家等の人材育成には触れていなかったため、記述を追加しました。
		7 今スポーツ施設の整備も計画されている。15年後には市民ホールの必要性も出てくると思うが博物館建設は財政的に対応できるのか？	厳しい財政状況ではございますが、市の未来を創る重要な文化事業として財政面も含めて実現を図って参ります。
		8 p.15「統廃合のあり方」で「旧町村時代からの経緯や関係者の意向に十分配慮し」とありますが、一方的な説明会だけで良いとは思えません。また、「統廃合する施設の条件」には「入館者が年間1000人以下である。」とあります。施設の性格・条件で異なるので、数字だけで判断すべきではないと思います。	実際の統廃合に際しては、市民や関係者への十分な説明を行い理解を求めていく一方で、意見もしっかりと聞きしていくことは言うまでもありません。しかし、一方で公共施設再配置計画の方針にありますように、今後財政的に厳しい時期が迫る中で、公共施設の再編整理は避けられない課題でもあり、どこかで折り合いをつける必要があることもご理解ください。 また、本構想書p.15「統廃合を検討する施設の条件」では、入館者数だけではなく、複数の要因のあるものを対象としています。
5 統廃合や新市立博物館設置に向けた条件整備	9	準備センターはプレハブによる建設か？	博物館準備センターは、新市立博物館ができるまでの間、博物館の機能を補う施設であり、資料を整理・保管するためのスペースと、学芸員の作業スペースを兼ね備えた施設として構想しています。P18「博物館準備室の創設および博物館準備センター（仮称）の設置」の項にありますように、機能さえ満たせば空いた公共施設やプレハブなどの簡易な構造のものを利用するとしています。
		10	準備センター等は既存施設の活用を考えたらどうか。
	11	コンパクト展示の場合の人数（観覧者数）の把握が必要。	博物館活動の実績の指標として有用のため、検討して参ります。
	12	“みらい”“きぼう”と連携して様々なコンパクト展示を期待する。	p18「人材育成と資料活用の拡大」の中で、交流学習センターの活用について記載しています。
	14	「人材育成と資料利用の機会拡大」では「小中学校や交流学習センター、公民館等」が巡回展示の場としてのみふれられており、連携・人材育成の観点がないようです。	本構想書p.18・19「統廃合や新市立博物館設置に向けた条件整備」の項では、博物館準備センターの設置や地域を巡回するコンパクト展示などを通して、若手学芸員の育成を図っていますが、在野の専門家等の育成には触れていなかったため、記述を追加しました。

ご意見をいただいた 構想書の該当箇所		No.	ご質問・ご意見・ご要望	回答
新市立 博物館が 目指す姿	2 新市立 博物館の 基本方針	15	要素の中に“里山”という言葉も入れてほしい。	「里山」という要素は、本構想書p.21「新市立博物館の基本理念」に掲げています「自然と人々の営みが生み出した安曇野の文化」と照らし合わせても、重要な要素であると考えます。 ただ、自然や民俗、景観などにも該当し、切り分けしにくい要素のため、この表には記載していません。要素表は「代表的なもの」という観点でご覧いただければ幸いです。
		16	p.23「安曇野らしい博物館とは」で「北アルプスの景観や自然などの要素」を「内外に発信する魅力ある博物館活動を展開していきます。」とありますが、まず近隣の山岳博物館や自然体験施設、山小屋関係者等との連携を深め、交流することから始め、安曇野市は関係施設やフィールドへのガイドの道を選択してはと思います。「文化振興計画で、行政は環境づくりに努めます。」とあります。	山岳や自然の要素は安曇野市にとって最も重要な要素であり、関係施設との連携したフィールドガイドも重要な取り組みのひとつであると考えます。本構想では、p.30「連携の活動内容」で、フィールドミュージアムづくりに向けた市民連携や、p.38「施設の構成」にてフィールドミュージアムガイダンスの場を設定しています。ご意見は構想の実現を図る中での検討課題とさせていただきます。
事業・ 活動構想	全般	17	例えば、p.33「創造」の基本的な考え方として「安曇野の文化を伝える機運を高める・学びから地域振興へ・市民相互の一体感をつくとあるが、いずれも、どうやってつくりあげるのか、どのように貢献するのか、全体的に取り組みの具体的な内容が記されているとわかりやすい。	本構想は、新市立博物館の事業・活動の方向性を示したものです。ご意見は構想の実現を図る中での検討課題とさせていただきます。
	4 学び・ 創造事業	18	展示や企画について、この地域の事だけに固執するのではなく、他地域の方にも興味や関心を持っていただくような展示や企画が大事である。	新市立博物館は、地域の文化を地域の活性化や観光振興に活用するしくみづくりに貢献することも重要であると考えています。ご意見は構想の実現を図る中での検討課題とさせていただきます。
		19	年間のイベント(普及活動)を多くして、他の市町村がやっていないことを推進していけば、都市圏からも参加者は集まり、観光資源の可能性もある。	
施設構想	1 施設の 立地条件	20	新博物館の建設場所は郷土博の所を拡大するという事か、或いは新規の場所か？	新市立博物館の立地につきましては、本構想p.35「施設の立地条件」に挙げている考慮すべき項目をふまえ、今後、候補地を検討して参ります。
		21	安曇野インター東の開発について、独自にネットによるアンケート調査を行ったが、自然を生かした農業公園のような施設の希望が多い、ここを候補地としたらどうか。	
		22	p.35施設の関係で、現 近代美術館を博物館にする。	
	3 新市立 博物館に 必要な 施設の構成	23	大人も子供も気軽にに行ける交流の場であることが大事。	新市立博物館は、市民とともにある博物館をめざして事業・活動を構想し、特にP.32・33「学び・創造事業」にて、市民との学びの輪を広げる事業活動を構想しています。また、建物のあり方として、p.37・38「施設の構成イメージ」にて、市民の「活動体験部門」や、多様な人びとが訪れ利用する機会を増やす「サービス部門」「共用部門」を設け、市民が気軽に訪れ、交流や活動を楽しめる場を構想しています。
		24	人との触れ合いができる企画や場所の提供をお願いしたい。	
		25	外構にも配慮して頂き、市民が集える施設を要望する。	
26		展示が主の博物館でなく体験型の博物館を要望する。		
			1新市立博物館では体験型の展示を重視し、本構想書p.41にありますように「体験展示」のエリアを設定し、来館者が五感を使って学び、遊べるエリアを整備し、屋内で資料に触れたり、屋外で自然に親しんだりできる体験を提供する展示を構想しています。	

ご意見をいただいた 構想書の該当箇所		No.	ご質問・ご意見・ご要望	回答
管理 運営構想	2 管理 運営組織	27	各博物館の“友の会”は今後どうなるのか、統合されるのか？	各美術館・博物館の「友の会」は、組織の在り方や館の 関わり方が施設ごとに異なっているため一概には言え ませんが、統廃合を進める中では、引き継がれた館の 友の会の中に包括されていくものと考えています。新市 立博物館構想の中ではp43「管理運営構想」の市民 組織のひとつとしてイメージされています。
構想全般		28	将来、博物館が建設されるように政策の継続性が担保される ことを望む。	新市立博物館構想についてご理解とご支援のご意見を いただきありがとうございます。本構想について、ますま す市民の皆様の認知や関心を高める活動を行い、市民 の皆様とともに計画を推進してまいりたいと考えていま す。
		29	大事な計画であるが後回しになりがちである。文化に理解の ある方々がこのような計画を作っていただくことは大事であ る。	
		30	生涯学習の意味では南部総合公園の体育館も必要だが、こ の施設もスポーツ振興同様に生きがいにもなり重要な施設で あると考える。	
		31	合併後は新しい美術館・博物館が必要と考えていた。 新しい施設は集客力があると考える。	
		32	P.3「老朽化と耐震補強の未整備」の対応は必要ですが、市 民に関心を持ってもらえるよう広報、参加型企画の実施など を通じて、新市立博物館への理解を深めていくことが重要だ と思うものです。	